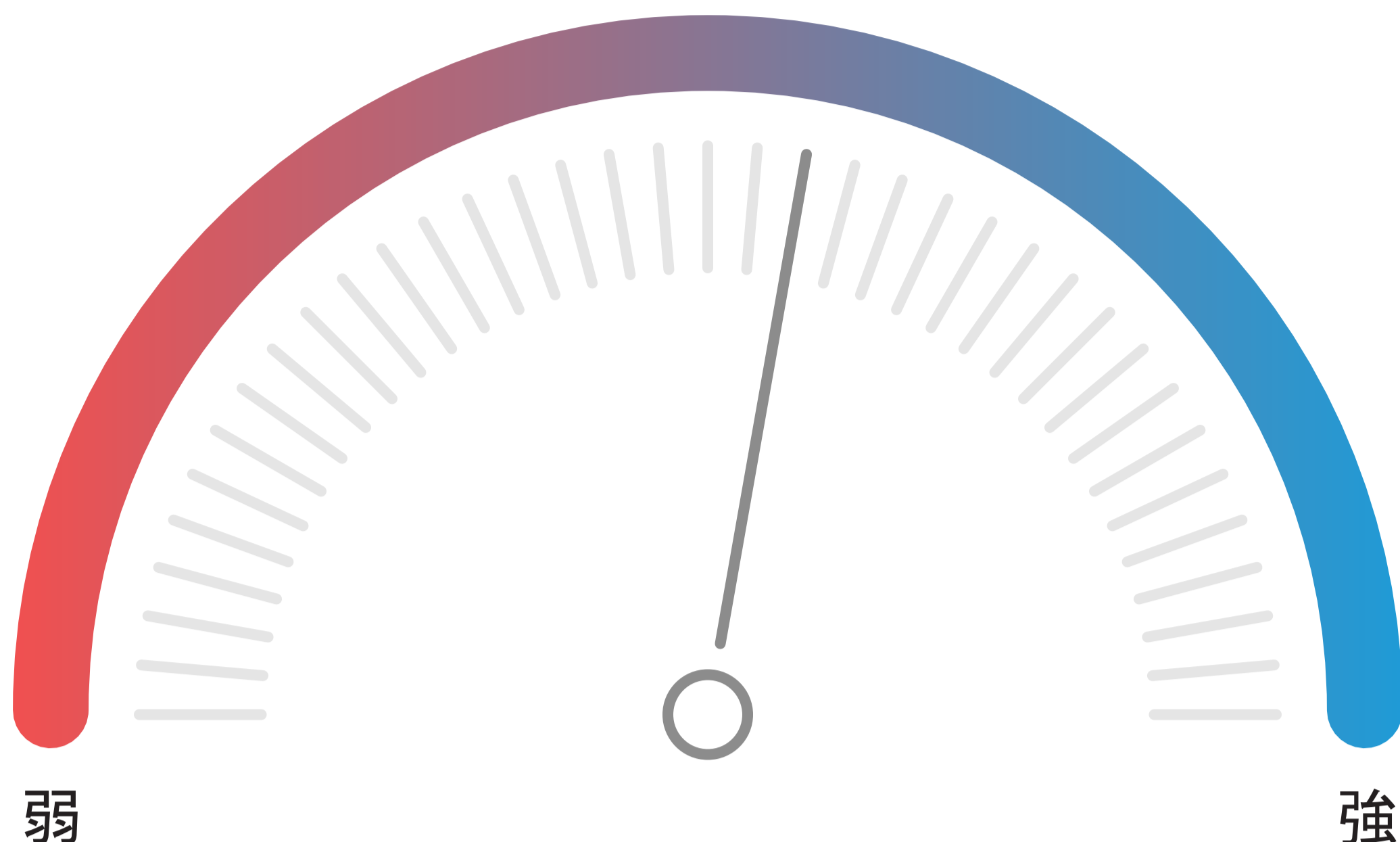


世界景気バロメーター

2017年1月

世界経済の成長は今年も緩やかなものとなるが、昨年よりは拡大ペースがやや加速する見通し。短期的には上振れの可能性もあると見ている。インフレ率は先進国では上昇するが、新興国では引き続き安定的に推移すると予測される。

経済成長



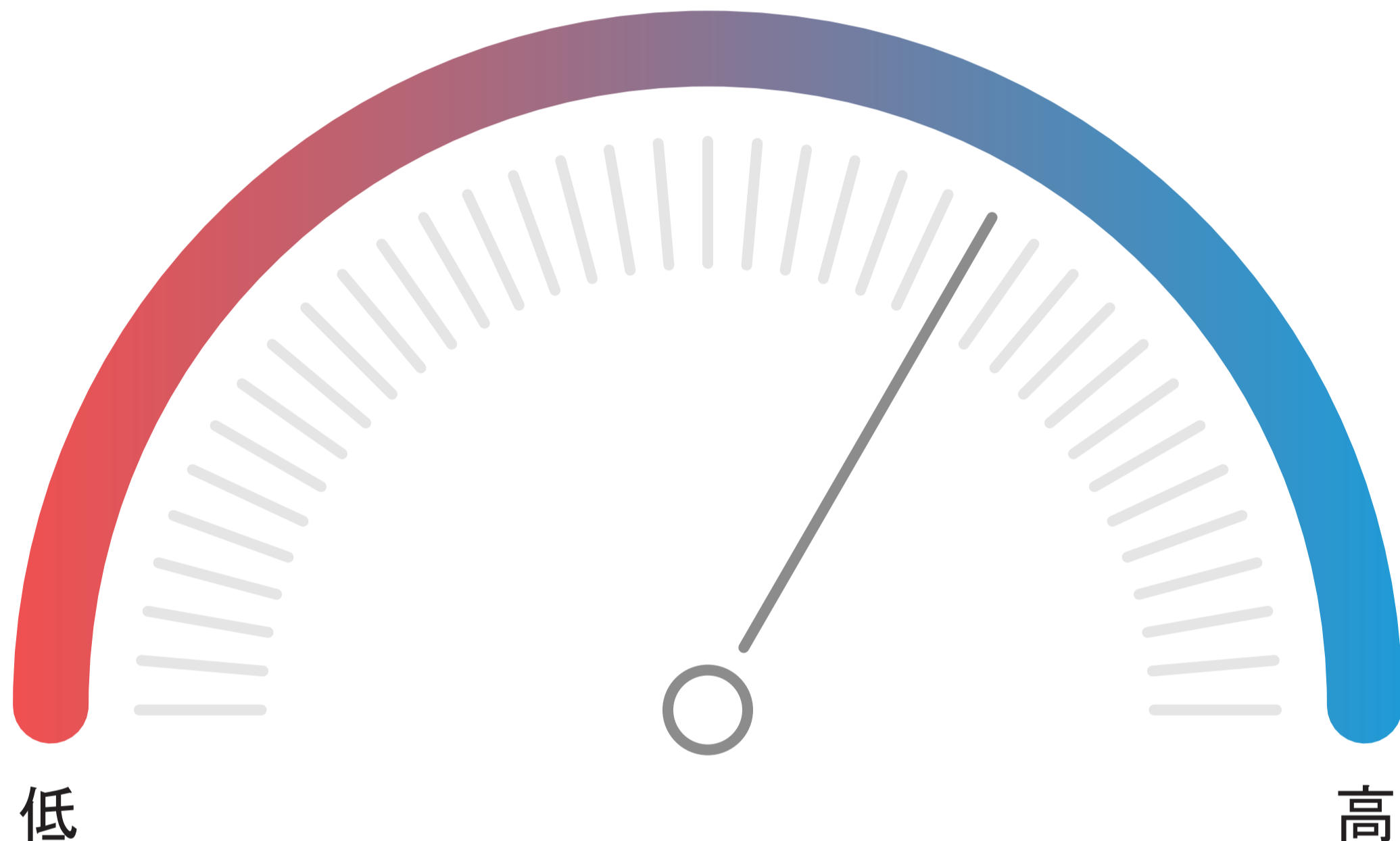
見通し

- + 世界経済は引き続き緩やかに成長するが、昨年よりはやや加速
- + 米国と日本の成長率が上昇するが、中国の減速がこれを相殺。欧州は横ばい
- + 堅調な足元の指標に加え、財政出動の公算を考えると、上振れの可能性も

リスク

- + 政治的な不透明性と保護主義の台頭
- + 財政刺激策の行きすぎ、または不発
- + 一部の中国企業の債務問題

インフレ率



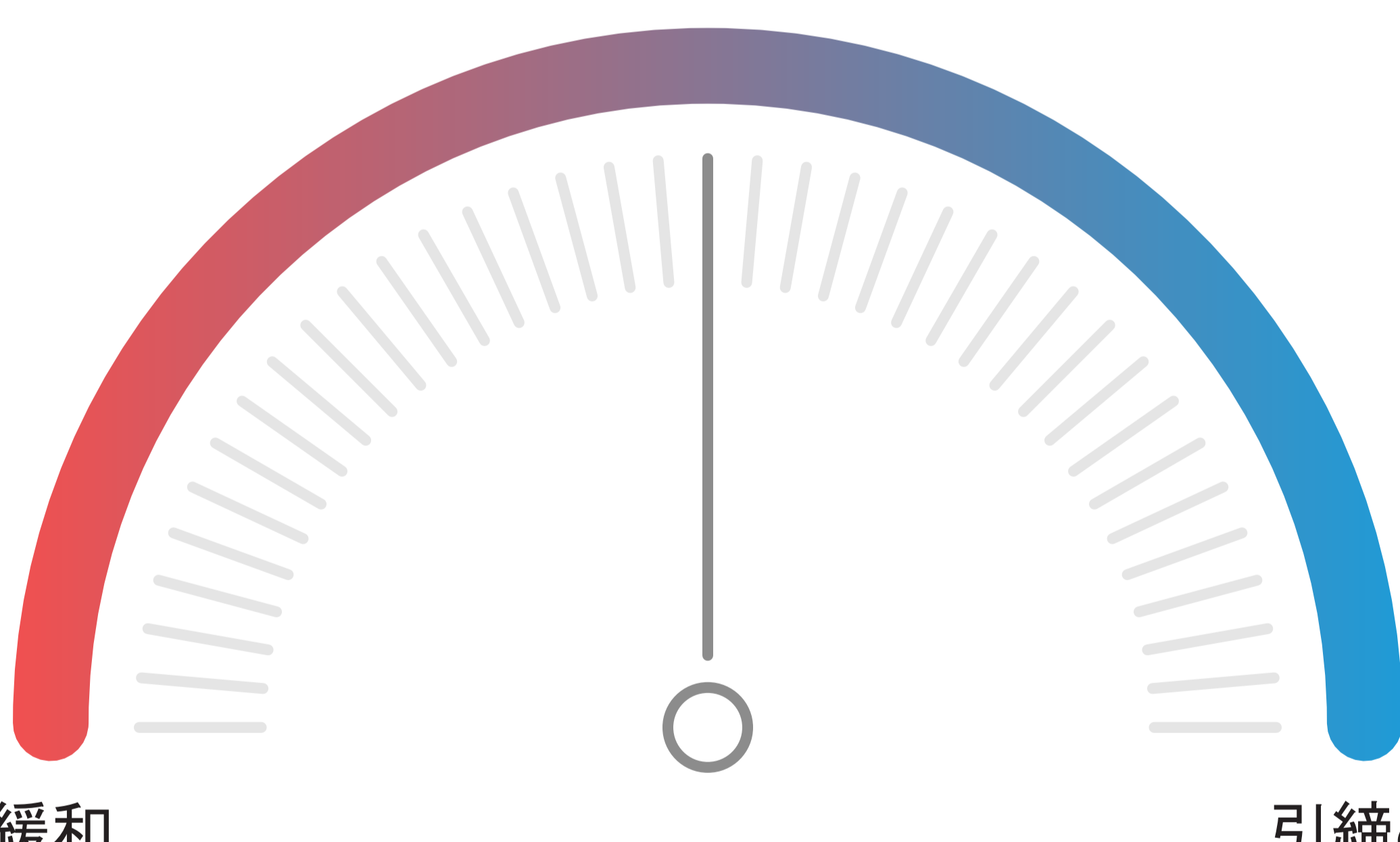
見通し

- + 先進国の総合インフレ率は上昇
- + 主な上昇要因はエネルギーだが、コア指数も上昇の見通し
- + 期待インフレ率の変化を注視。賃金上昇率も要注目

リスク

- + 原油価格のさらなる変動
- + コモディティ市場の需給の不確実性
- + 中国の工業における過剰設備の削減動向

金融政策



見通し

- + 米連邦準備制度理事会(FRB)は徐々に金利を引上げ
- + 当面、日本銀行と欧州中央銀行(ECB)は大規模な資産買入を継続
- + 2017年後半には上記の基調に変化も

リスク

- + 米政府の財政出動への警戒からFRBがタカ派的なスタンスに
- + 日銀・ECBによる資産購入の大幅な削減
- + 欧州の銀行の経営問題

出所: AB

本文中の見解はリサーチ、投資助言、売買推奨ではなく、必ずしもアライアンス・バーンスタイン(以下、「AB」)ポートフォリオ運用チームの見解とは限りません。本文中で言及した資産クラスの過去のパフォーマンスは将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

当資料は、2017年1月10日現在の情報を基にアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが作成したものをアライアンス・バーンスタイン株式会社が翻訳した資料であり、いかなる場合も当資料に記載されている情報は、投資助言としてみなされません。当資料は信用できると判断した情報をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また当資料の記載内容、データ等は作成時点のものであり、今後予告なしに変更することがあります。アライアンス・バーンスタインおよびABはアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。アライアンス・バーンスタイン株式会社は、ABの日本拠点です。

アライアンス・バーンスタイン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第303号
【加入協会】 一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／日本証券業協会／一般社団法人第二種金融商品取引業協会
<http://www.abglobal.co.jp>

